

## 教科実践レポート

英語科

文責 兼松 尚子

《研究実践のポイント》

◎見方・考え方ははたらかせ

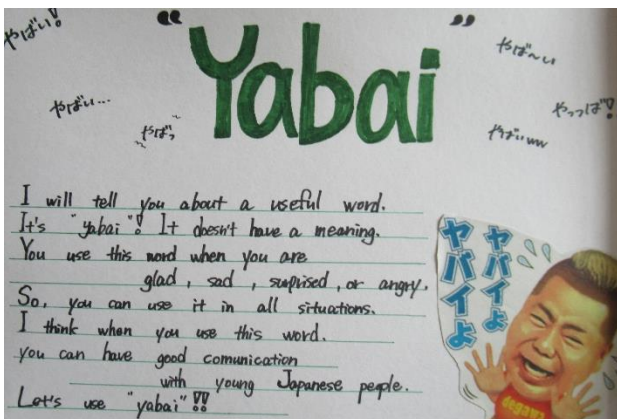
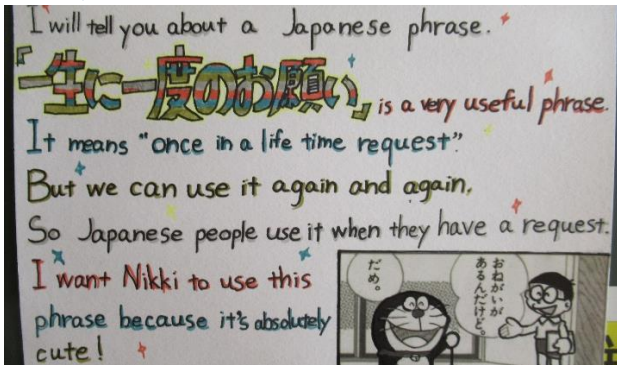
思考を深める授業づくり

◎生徒が自ら思考し、表現したくなる言語活動

### 1. 本校英語科の一員として

4月の1回目の教科部会で中村西中学校の生徒の英語に関する学力の状況を教科長の森原先生から聞いた。県の平均・全国の平均を超えており生徒は楽しんで表現活動に取り組んでいるとのこと。英語教室に貼られている生徒の成果物を見てまず驚いた。やらされて作った型どおりのものではなく、**自由度にあふれる、楽しさいっぱいの成果物**だった。英語って楽しい！があふれていた。

It's so cool !!



どのような授業で生徒はこのように英語を使うことに臆することなく取り組めるのか？かつ学力を確かなものに引き上げている授業の秘密とは？

かなりわくわくしながらの1年がスタートし

た。教科部会で話し合いながら、昨年度までの取組を踏襲し、また新たなフレーバーも入れつつ3人で授業づくりに取り組んだ。いくつかの英語科の授業づくりの秘密を発見したこの1年間を振り返りたいと思う

### 2. 英語科の秘密1

#### ○チャレンジできる単元ゴールの設定と授業計画

英語科のゴール活動は、Can-Doリストなどに基づいて各校に任されており、英語科の教師が生徒の興味関心や実態に応じて設定している。

単元の始めに提示したときは、「こんなことできるかなあ」と自信のない生徒も単元が終わる頃には「意外にできた」と実感できるように授業でスモールステップを積み上げている。

(例) 3年英語

Unit6 Beyond Borders

英語科が設定した単元ゴール

国際協力について書かれたエッセイを読み、自分の考えを書いてニッキーに伝えよう。

この単元の題材は「国を超えて助け合う大切さを知り、自分に何ができるのかを考える。」というもので、教科書本文は「ランドセルを海外の子どもに寄付する活動が紹介されていたり、日本は食料など海外からの輸入に大部分依存している。」と言った内容が書かれている。

ゴールに向かうための動機づけに英語科では伊藤先生にお願いしてJICAの一員で東ティモールで2年間活動した経験を3年生全員に学年英語を設定して話してもらった。

(伊藤先生の話聞いて) 生徒感想より抜粋  
・国際協力というと今までは貿易とか条約と言ったイメージだったが、今回先生の話聞いて「理解」とか「尊重」というものもあるなと思った。私も将来韓国に行って先生をしたいと思っていましたが、大変そうであきらめていたけどいつかみたいと思った。そしてその地域のひとが大切にしている事に触れて自分の考えを広げたい。

(伊藤先生の話聞いた後国際協力には何が大切かについての考えを書かせました。以下生徒の文をそのまま掲載。)

・ I think it's important for us to know something about foreign countries. I have two reasons. First, there are many cultures in the world. For example, there are Christian, people who respect Islam and who respect no person. Second, there are war in the world. It's started because of difference between people. So it's important for us to know each other not to start war.

CSにも書かれているように、「外国語の学習を通して、他者を配慮し受け入れる寛容の精神や平和・国際貢献などの精神を獲得し、多面的思考ができるような人材を育てる」意味でも有意義な授業であった。

ゴール活動のエッセイは「(故) 緒方貞子さん(元 国連難民高等弁務官)」が以前道徳の教材に載せていた「中学生の皆さんへ」というエッセイをALTに英訳してもらって生徒に読ませて英語でそれについての自分の考えを書かせることにした。

1回目、2回目と設定して加筆・引用を加えていき内容がレベルアップしていった。自分の変容を実感することができ、自信につながったと思われる。書くことについて抵抗感を生徒は全く示さず、間違えても言いたいことを頑張って書こうとしている姿が見られた。 Nice challenge!

#### Performance Test (Writing) (64)

Please read the statement written by Sadako Ogata, and write an essay about it.

First time

I agree ~~that~~ <sup>that</sup> we are lucky to be born in Japan. Because we <sup>are</sup> living safely. But, I think we must understand there ~~is~~ <sup>are</sup> people who <sup>are suffering,</sup> living ~~safe~~ <sup>safely</sup>. So I want to do we can things. For example,

#### 同じ生徒の1回目から2回目の変容

Second time

I agree that we are lucky to be born in Japan. Because we are living safely. But, I think we must understand there are people who are suffering from poverty, environmental problems <sup>and so on</sup> etc. So, I want to do what we can do. For example, donate money, buy fair trade products etc. I think help is necessary <sup>to</sup> live in this world.

### 3. 英語科の秘密2

#### 〇リテリングで生徒の表現力をアップ!

Retelling は、西中英語科が今までも取り組んできた活動で、読む・聞く・話す・書くを総動員させる活動である。生徒も慣れていて楽しんでいる。

教科書本文を読んだ後、内容について自分の言葉で友達に伝え合う活動を仕組む。互いに伝えた後は話したことを書かせる時間も確保し、後日「Your friends' good work」としてA4表裏に10名ほどの英文を紹介している。

#### Your friends' good work

"An essay to Sadako Ogata's message" 2<sup>nd</sup> time (3-2)

Riona Hirano

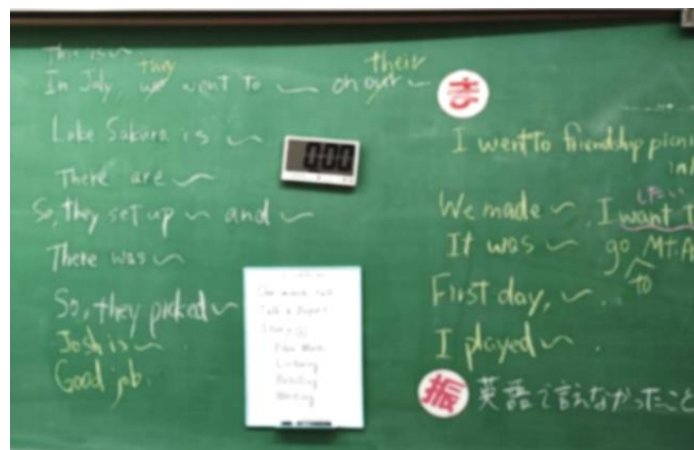
Ms. Sadako said, "We are lucky to be born in Japan." I agree with her opinion. Can you say "Thank you" and "Itadakimasu"? It is not natural that we can live in a peaceful country. And, it is not natural that we can eat delicious food. We should give thanks for our happiness in our daily lives. We must not forget that.

Yuyu Yamaoka

Mrs. Ogata said, "Without helping each other, the richest countries in the world can't continue their current lifestyles." I think so too. We are using many products which come from developing countries. So, helping developing countries will make us happy, too. Most of people who live in Japan understand this. But people who are doing something for developing countries are few. I think it's not a good thing because there are many things we can do. For example, to send clothes you can't wear. It not only makes people's lives better, but it's also good for the environment. It's just a small thing but it will make big results. It's necessary for us to continue helping each other beyond our borders.

生徒は自分の英文が選ばれているか気にしているし友達の書いたものはよく読んでいる。次回は自分の書いたものが載るといいなと思い、より良い表現をしようという書く意欲にもつながっている。

1月末の郡英語研究大会で高松先生が1年生でこのリテリングの様子を公開したが、他校の先生方もたいへん興味を持って見てくださっていた。 Mr.Takamatsu,good-job!!



中間指導でどの生徒も使える汎用性のある表現を生徒から拾い出して板書していた。リテリングする時にヒントワードとなる。

いずれも、ワークシートや板書など生徒自身が自分の伸びを自覚できるよう可視化する工夫を意識している。

リテリング以外でも、授業開始後のTalk&Reportの帯活動(約5~7分)を毎時間行っている。目的・場面・状況を設定してペアで即興でやりとりさせ、その後話したことを別のペアに伝え、最後に書くという流れである。例えば、避難訓練、つどい祭、生徒会選挙などの前には、行事の実施要項のメモ(日本語)を生徒に渡したりして「ニッキーも参加するけど知らないから詳しく説明して訓練の流れを説明しよう!」といったように実生活と結びつけたテーマで話させることもある。1年次から積み上げることで3年間を通して繰り返し英語に慣れさせて定着を図ることができる。

ニッキーに次の行事について英語で説明する文を書きましょう。以下は、簡易書きですが、まとまりのある説明文で書いて下さい。

- 火災避難訓練  
 ・11月2日(水)  
 ・非常ベル(emergency bell)が9:50に鳴る  
 ・運動場へ避難する  
 注意 お:押さない  
 は:走らない  
 し:しゃべらない  
 ち:うわばきのままで

- ・全国瞬時警報(Nationwide alert)が鳴る10:00  
 しゃがんで下さい  
 ・その後、消火器の使い方の練習  
 10:20には終了予定

Thursday, October 27th  
 On November 2nd, we have<sup>a</sup> fire evacuation drill. First, <sup>the</sup> emergency bell will ring at 9:50. We should go<sup>to the</sup> ground with<sup>our</sup> indoor shoes on. It's important not to rush. Second, <sup>the</sup> nationwide alert will ring at 10:00. Please ~~sit~~ <sup>squat</sup> down. After that, we will practice how to use<sup>a</sup> fire extinguisher. Thanks for telling me about the fire drill! I'll know what to do now.

授業で話したことをジャーナルノートへ

#### 4. 英語科の秘密3

##### ○指導と評価の一体化を意識して・・・

授業では「間違いを恐れずに、出川イングリッシュでもいいからしゃべろう!書こう!」といいつつ、テストではかなりシビアに細かなミスが減点する・・・ということがあるとどうだろう?生徒との信頼関係はできないと思う。

最後にこのような評価で見取るということは始めにしっかりと生徒に伝えておくべきであ

る。

西中英語科作成の定期テストの最後の問題(思考・判断・表現)は、解答用紙に必ず「ループリック」を作成して評価規準を示している。細かなミスが減点するのではなく、書こうとしている意欲を見取る工夫をしている。

このような取組が書くこと嫌いを作らない工夫の一つとも言える。生徒はまちがっても何かは書こうと頑張っ解決用紙に英語を書き連ねている。もちろん正確さも授業で指導はしていかなければならない。バランスが難しい。

(テストの解答用紙・ループリック)



【評価規準】合計(4)点

	5	4	3	2	1
①語数 number of words	40語~	30~39語	20~29語	10~19語	~9語
②正確性 accuracy	ほとんど間違いがない	-	偶々たい間違いがある	-	内容が伝わらない
③内容・表現 contents / delivery	内容を工夫し多彩な表現で書いている	-	内容はある程度工夫している	-	工夫が足りない
④文章の構成 construction	自然な流れでまとまりのある文章を書いている	-	ある程度まとまりのある文章で書いている	-	まとまりがない

また、テスト問題を早い時期に3人で確認し、テストでこのような力を見取ると言うことを確認した上で授業を行っている。(チームで授業を行う上では欠かせないと思う。)テスト形式も毎回同じであることが生徒にとっても安心感につながっている。問1はリスニング、問2は語彙を問う問題、問3は語順並べ替え、問4はまとまりのある英文を読む問題・・・最後はまとまりのある英文を書く問題・・・というようになっている。問題数や配点も毎回ほぼ同じである。指導と評価の一体化は生徒との信頼関係を築く上でも大切である。 So systematic !!

## 5. 課題

このような取り組みを英語科では年間を通して行っている。今年度の GTEC（2年生対象）の結果は以下の通り。四万十市の平均は全て上回っている。「書くこと」・「話すこと」については全国を上回った。

	全体	読む	聞く	書く	話す
本校	396.5	76.1	86.5	<b>142.7</b>	<b>91.1</b>
四万十市	378.0	74.7	84.2	<b>136.8</b>	<b>81.1</b>
全国	406.6	84.0	96.0	<b>136.0</b>	<b>88.0</b>
全国との差	-10.1	-7.9	-9.5	<b>+6.7</b>	<b>+3.1</b>

今後の具体的な取組として・・・

### ○読むことへの取組

・スラッシュ読みや、意味のまとまりごとに読ませる練習を授業でも繰り返し行っていく。

### ○聞くことへの取組

・授業での練習不足がある。必要な情報をメモしながら聞き取らせる活動や、聞いたあとで質問に対する答えを書かせるなど2技能を統合した活動を多く仕組む。

---

あっという間の1年間だったが、英語を教えることを楽しむ西中の先生方、英語を学ぶことを楽しむ西中の生徒に助けられた日々だった。課題克服に向けて来年度も頑張っていきたい。

We'll keep on challenging !!